〈企画・制作〉日本経済新聞社クロスメディア営業局

広　告

日経 健康セミナー21 スペシャル

日本の未来、日本の社会保障を考える

～世界に誇る国民皆保険制度を維持するために ジェネリック医薬品ができること～

年1兆円規模で増え続けている国民医療費を抑制することは、国家財政の再建のための重要な手段の一つで、これを実現しなければ日本が世界に誇る国民皆保険制度の維持もおぼつかなくなります。そこで大いに期待されているのが家計にも優しい薬、ジェネリック医薬品です。このほど大阪市内で開催された「日経健康セミナー21スペシャル――日本の未来、日本の社会保障を考える」（主催：日本経済新聞社 後援：厚生労働省・全国健康保険協会・日本薬剤師会・国民健康保険中央会・健康保険組合連合会 協賛：日本ジェネリック製薬協会）では、ジェネリック医薬品の果たすべき役割と、今後さらに普及を促進するための課題などについて専門家の話をうかがいました。

「ジェネリック医薬品を」と直接言いにくい時は、このカードの提示を（JGAホームページ 一般の方向け情報→ジェネリック啓発資料からダウンロードできます）

次世代のためにジェネリック医薬品で医療費抑制

基調講演

これからの日本経済と社会保障

慶応義塾大学教授
グローバルセキュリティ研究所所長
竹中 平蔵 氏

非常に大きな問題だと受け止められていることです。我々は、中国との外交は難しいと思っていますが、実は世界のリーダーは、ころころと総理大臣が変わる日本に対しても同じように思っています。またGDP（国内総生産）世界2、3位の国同士が尖閣問題で揉めて、経済にマイナスの影響を受けたら、これはグローバルな問題ならざるを得ません。このことは肝に銘じておかなければなりません。

財政健全化へ 医療効率化は不可欠

◆評価高い「アベノミクス」

1月末にダボス会議（世界経済フォーラム年次総会）が開かれましたが、そこで私が印象に残ったことが3点あります。

まず昨年の空気とは一変、世界経済の悲観シナリオは避けることができたという安心感が漂っていたことです。欧州中央銀行（ECB）のユーロ加盟国国債の無制限買い取り、米連邦準備制度理事会（FRB）の量的緩和第3弾という昨年行われた重要な決定を受けて、ドラギECB総裁が「日本までもが変わり始めた」と言ったように、今年は、はっきりと良い方向が見えています。

2点目は、通貨安競争という批判もありましたが「アベノミクス」への評価が極めて高かったことです。金融緩和など大胆な金融政策、機動的財政出動、成長戦略の「3本の矢」でデフレ脱却を目指す政策は正しいという声が圧倒的でした。ただラガルドIMF（国際通貨基金）専務理事がインタビューで「今年のリスク地域は日本だ」と言いました。アベノミクスは正しいが、実行できなければ財政赤字が膨張するだけで、円が暴落する可能性があるというわけです。

3点目は、日中問題が世界では、当面、財政支出を10兆円規模で増やして景気を刺激するけれど、ギリシャ以上のGDPの2倍という借金を抱えているので、国債暴落リスクを避けるためにも7～8年で財政を再建しようということです。将来的には歳出を相当カットしたり、増税したりしなければなりませんから政治的に大変難しい仕事です。こちらについてはまだ再建の見取り図が示されていないどころか、いつ示すかさえ明らかにされていません。20年まで に基礎的収支を黒字化させようとすれば、足元で借金を増やせばあとで苦しくなるばかりです。国民に辛い選択を示し、それを実行する力を政府は持たなければなりません。

私は経済財政担当大臣を4年半務めましたが、その間内閣は成長戦略を1回もつくっていません。しかし私が辞めて7年の間に7つの成長戦略がつくられました。ところが皮肉なことに経済成長率は下がりました。経済成長のための打ち出の小槌なんてありません。競争力をつけるには、企業が競争の中で頑張るしかないのです。そのためにできるだけ規制緩和をして自由な競争を促し、税金もできるだけ高くしないことが必要です。

私は安倍総理から産業競争力会議のメンバーに指名されましたが、ここで今までの成長戦略と同じようなものをつくるのは全く意味はありません。私は「景色を変えるような政策」をつくるべきだと主張しています。例えば、東京を世界で一番魅力のあるビジネス都市にしようと考えたら、省庁の一部局が補助金行政で予算をつけるといった小さい話ではなく、羽田空港の国際線の能力を3倍にしよう、新幹線やリニアモーターカーで東京駅と直結しよう――というような、まさに景色を変える骨太の目標をつくるべきです。

成長のためには激烈なグローバル競争に勝ちぬかなければなりませんが、若い人たちに本気で国際人材になってもらわなければなりません。韓国は1997年の通貨危機の後、ものすごい危機感を持って国際人材育成のための教育改革を行い、英語だけで授業を行っている高校までできています。友人が面白い計算をしました。ジェネリック医薬品を使ったり競争メカニズムを働かせたりして国民医療費を5%効率化したとすると、そのお金で毎年40万人、つまり大学新入生ほぼ全員を留学させることができます。

◆年金と医療がポイントに

アベノミクスを期待先行で実体から経済がどんどん沈滞していく。これがデフレの怖さです。ものの値段が下がる大きな要因はマネーの量の不足です。量が少ないからお金の価値が上がり円高になるのです。06年3月に日銀が量的緩和を止めたため、需給ギャップが解消され、デフレを克服するチャンスが来ていたのにつぶしてしまったわけですが、当時の官房長官が安倍晋三さんでした。きっと残念な思いをされたのだと思います。

機動的な財政政策という意味が伴っていないと、冷たく言う人がいますが、「期待」というのは政策の原点で、重要な意味を持っています。期待は自己実現するからです。仮にみんなが10%成長すると信じたら、それに沿って投資をして消費もして住宅ローンも借りるのです。

安倍内閣は期待を実体につなげるためにいろいろ手を打っておられますが、地方分権、エネルギー、社会保障の問題にどう取り組むかはまだ明確ではありません。歳出削減を伴わない財政再建はあり得ません。増税と歳出、特に社会保障の効率化は避けて通れません。年金と医療が重要なポイントです。皆さんにとってはご不満だとは思いますが、年金の支給額、支給年齢の見直し、所得制限が必要でしょう。医療費については、効率化のためにジェネリック医薬品の活用などをさらに進めなければなりません。

安倍政権で経済がよくならなければ日本の将来は本当に厳しくなります。批判すべきところは批判しつつ前向きに応援するというスタンスで協力したいと考えています。

パネルディスカッション

次の世代のためにいま、私たちができること ジェネリック医薬品

パネリスト
- 鎌田 光明 氏　厚生労働省医政局経済課長
- 有山 良一 氏　横浜市総合保健医療センター診療部課長 日本ジェネリック医薬品学会理事
- 貝谷 伸 氏　全国健康保険協会理事
- 向井 亜紀 氏　タレント

司会
- 森 まどか 氏　フリーアナウンサー

森　まず有山さんにジェネリック医薬品とは何かをおうかがいします。

有山　医療用医薬品には先発医薬品とジェネリック医薬品があります。先発医薬品のうち特許期間が残っているものが新薬で、特許が切れたものを長期収載品と言います。この長期収載品と同一有効成分、同一効能で、別の製薬会社がつくった薬がジェネリック医薬品＝後発医薬品です。

ジェネリック医薬品は、何よりも価格が安いということが最大の特徴です。特許が切れて国民の財産となった有効成分をもとに、OD錠（口の中で溶けて、水なしで飲める薬）にするなど、飲みやすくするための製剤面の工夫に特化しているので安くできるのです。ボトル入りだったシロップを1回分ずつパックにして簡単に飲めるようにしたり、子供の誤飲を防ぐパッケージも登場しています。いろいろな会社が発売して競争が生まれるので患者さん目線、ユーザーフレンドリーなものがどんどん開発されています。安いから不安だという話も聞くことがありますが、規制や基準について全く手抜きはありませんし、厳しい日本の基準に適合したものだということです。

◆普及率はまだまだ見劣り

森　普段の生活でもよく耳にするようになりましたが、国もジェネリック医薬品の積極的な利用を呼びかけていますね。

鎌田　国民医療費は毎年約1兆円ずつ増え続け、2010年度に約37兆円に達しました。このうち2割強、約8兆円が薬剤費です。現在、一生懸命適正化を図っており、その一つとしてジェネリック医薬品の利用を促進しているのです。12年度末で普及率（数量ベース）30%の目標を立てていましたが、昨年9月時点で25%というところです。欧米では60～70%という国がありますからまだまだだと思います。

森　向井さんはジェネリック医薬品をご存知でしたか。

向井　はい、よく知っています。昔からコマーシャルで目にして、いつか使う日が来るのかなと思っていたのですが、2000年にがんを患い、その治療のために薬を飲み続けなければならないので、ジェネリック医薬品が増えているのはとても助かっています。

普及に医師、薬剤師の説明重要 鎌田氏
競争が患者さん目線の薬を生む 有山氏
皆保険制度の維持に重要な役割 貝谷氏
自分だけではなく社会のために 向井氏

うちの母などは、お金をケチるのは…という気持ちがあるようですが、そうではないと話をして、どんどんジェネリック医薬品に替えていきました。

森　健康保険の運営の立場では、どんな取り組みをされているのでしょうか。

貝谷　ジェネリック医薬品の利用は日本の皆保険制度を維持するための重要なポイントの一つです。そのため私どもは加入者に今服用している薬をジェネリック医薬品に切り替えたら窓口での負担額がいくら軽減されるかという通知サービスを行っています。09年度から11年度の実績で、通知した4人に1人に切り替えていただきました。そして薬剤費全体で軽減額は3年間で約125億円に達しました。

森　わが家にこれくらい節約できるんだという通知が来たら、具体的な行動を起こすきっかけになります。要因の一つは高齢化ですが、それより大きく影響しているのが最先端の医療機器、新しい薬などによる医療の高度化なのです。高度成長期は医療費の増加率を上回る経済成長と、労働人口の増加もあって、負担に関しては問題になりませんでした。しかし、これまでの9・1人で1人の高齢者を支える「胴上げ型」の社会から、今では2・4人で支える「騎馬戦型」になり、2050年には1・2人で1人の高齢者を支える「肩車型」になります。私たちが目指した長寿社会が実現するのはいいことですが、医療費をどう負担していくかが課題になってきました。そこでジェネリック医薬品を普及させる課題が出てきたのです。

鎌田 光明 氏

貝谷 伸 氏

有山 良一 氏

向井 亜紀 氏

◆重み増す薬剤師の役割

森　ジェネリック医薬品の普及のために、今求められていることは何でしょうか。

鎌田　まず皆さんに理解していただくこと、次に医師、薬剤師さんが患者さんにきちんと説明していただくことです。そしてメーカーと卸業者は、医師、薬剤師さんに対して情報を伝え、品切れが起きないようにすることが大事です。

有山　わが国での本格的な医薬分業はまだ30年程度ですが、薬剤師の役割も非常に大きくなりました。医師の処方に対して、どんな製剤面の工夫がされた、どんな商品名の薬を選ぶかという裁量権を持つようになったのです。

医薬分業の手段の一つが処方箋で、医師がジェネリック医薬品へは変更しないでくださいと指定し、署名したもの以外は保険薬局でジェネリック医薬品を選べるようになりました。それに加えて一般名での薬の処方が急速に増えています。例えば降圧剤のアムロジピンというのは世界共通の一般名で、医師が一般名で処方するということは、どのメーカーのものを選ぶのかは、保険薬局で患者さんと薬剤師さんとで相談して選んでくださいということなので、ジェネリック医薬品がさらに選びやすくなるというわけです。

森　薬のことをお医者さんにはなかなか言い出せないという方も多いかと思いますが、向井さんは最初はどうでしたか。

向井　私は主治医の先生に命を助けていただいたという思いがあるので、逆に何でも言えます。お財布が心配で心が晴れず病気との闘いが長引くのはよくないし、自分を守るためには遠慮なんかしていてはダメだと思います。

◆何でも相談できる関係を

森　ジェネリック医薬品をお願いするために何か工夫できる事はありますか。

有山　日本ジェネリック製薬協会などが作成している「ジェネリック医薬品希望カード」がありますので、これを保険証や診察券と一緒に受付に提示するのもいいでしょう。

貝谷　私どもの加入者は3500万人ですが、これまで3年間で3000万枚の希望カードをつくりました。また保険証に貼る小さなシールもつくっています。カードやシールは患者さん側からジェネリック医薬品にしたいというアピールのためのツールですが、我々は逆にお医者さん、薬剤師さん側からの働きかけも希望しています。その一つとして実現したのは、薬局でもらう薬の説明書に、この薬にはこういうジェネリック医薬品があり価格はいくらですと書き込まれるようになったことです。患者さんが薬剤師さんにジェネリック医薬品の使用について相談するきっかけになると思います。

森　何でも相談できる関係をつくるのは大切ですね。

最後に一言ずつお願いします。

鎌田　政府ももちろん努力していますが、患者さん一人ひとりの行動が薬剤費の抑制につながり、ひいては次世代のためになるということを理解していただきたいと思います。

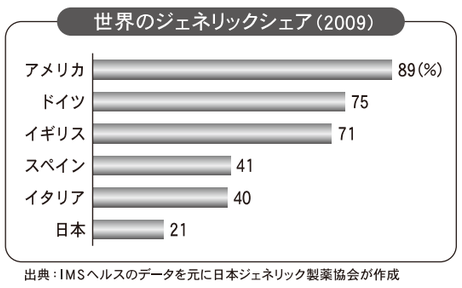
有山　いまは節電、節水などエコロジカルな生活を心がけることが普通になりましたが、それと同じようにジェネリック医薬品を使うことが社会のためになるのだという認識がさらに浸透することを期待しています。

貝谷　60歳代から70歳代に限ると3割ぐらいの方がジェネリック医薬品に切り換えていらっしゃいます。慢性化したために長期に服薬される方、年金生活で出費を気遣っていらっしゃる方にとって心強い薬です。ぜひこのことを頭の中に置いていただければありがたく思います。

向井　今日は大変勉強になりました。ジェネリック医薬品は自分のためだけでなく社会のためにもなるのですね。私たちの世代がジェネリック医薬品をもっと身近なものとして、親や子供、もちろん自分自身の体の管理に役立てたいと思います。

森　私たちの取り組みの一歩が未来の大きな力になるのだと改めて感じました。みなさんありがとうございました。

《司会》
森 まどか 氏



出典：IMSヘルスのデータを元に日本ジェネリック製薬協会が作成

JGA 日本ジェネリック製薬協会
Japan Generic Medicines Association
http://www.jga.gr.jp/